

感想文

赤松 隆二

曾爾村へはススキが銀色に輝くことでも有名な曾爾高原にハイキングで行ったり、すぐ近くの「兜岳」「鎧岳」に登ったあと「亀の湯」に入浴して帰った過去の記憶がよみがえる。今回、この季節の倶留尊山は秋の賑わいもなく近鉄名張駅（10：05 発）から太良路バス停までの三重交通バスは今回参加者 1 2 名の他は 2 名のみ、青蓮寺川沿いを走りバス停に着。

丁度酒屋の前（帰りのアルコールは確保できました。）準備体操の後、曾爾高原へ出発、村の中を通り抜け「曾爾ファームガーデン」「亀の湯」共に（本日休み）、途中観光バスが数台通り過ぎていったのは「国立曾爾少年自然の家」での研修か？中学生の挨拶をうけて駐車場を抜けて曾爾高原を亀山峠への遊歩道でなくショートカットして急登し二本ボソへの稜線の木陰でちょっと遅い昼食、心地良い涼風が眠気を誘うとおっしゃる方も、記念撮影後出発、《展望所》と称された広場に出る。亀山を振り返ると、後古光山、古光山が見て取れる。曾爾高原の新緑、お亀池も少し水を湛えていた。研修中の学生の姿が豆粒の様に見える。10 分ほどで倶留尊山を悪名たかき山にしている料金所の小屋、ピークに建っているのが迂回出来ない様になっている、平日なのに今日は管理人が、入山料 5 0 0 円を払って二本ボソ（帰ってから意味を調べると二本のボソが昔あったから今でもこの場所はそう呼ばれていると）へ対面に倶留尊山が聳える。鞍部に大きく降りて登り返しだ。途中でツツジとシャクナゲが咲いていた頂上（1, 0 3 8 m）は広々としており展望もまざまざ。この山は日本三百名山を強調しており、至る所に三百名山の文字がある。



倶留尊山の山名はこの山に見られる柱状節理の大障壁、すなわち賢却千仏「拘留孫」に由来し、第三紀に活動した火山のなごりで火山岩による柱状節理がみられる。

魔の時間帯の 2：0 0 に入り慎重に下山開始、料金小屋で帰りの半券のチェック受け亀山峠に、シーズンオフの時期バスの本数は少なく太良路発 15：37 は時間的に無理、最終の 17：06 迄ない CL の判断で遊歩道を下り「少年自然の家」でゆっくり休憩し、東海自然歩道を抜けてバス停に全員無事に到着。バスの時間まで反省会の時間は十分ありました。

好天気にも恵まれた一日でした。曾爾高原には魅力を感じたが倶留尊山自体はあまり・・・

しかし一帯は室生赤目青山国定公園に指定されている。

CL 園上さん、バスのプリペイドカード、近鉄の回数券購入とさすがの T さん（ビール代うきました）、他同行の皆様楽しい一日でした。ありがとうございました。

